

凡 例

一本書は景印太白山史庫本李朝實錄に就いて、明代の滿洲並に蒙古に關する記載を抄録編纂したものである。

一明代の滿洲蒙古に關する同實錄の記事は、廣きに從つて、概ね細大漏らさなかつた。たゞし蒙古及び蒙古民族に關する記事は極めて少いので特に編を分つことをしない。

一凡そ明代の滿洲及び其の周邊に於ける滿洲民族の活動事蹟、社會習俗等を傳える記事は、これを網羅し、交うるに李朝と明朝の女眞民族に對する政治、軍事、經濟上の施策と施設とを傳える記事、並に遼東と朝鮮との交渉に關する事項を以てした。そうしてこのような事項のうち、専ら朝鮮自體に關するものは、特に首に「參」字を冠して參考に資する意を示し、且つ活字の大きさを落して滿洲本位の記事との區

別を明かにした

一索引一卷を添えて人名地名の検索に便した。

一原本異字・俗字頗る多く、其の體も一二に止まらぬが、それは専ら印成の際新舊の鑄字を混淆併用した事實に本づくものであつて、格別重きを置くに當らぬと考えられるから、力めて常識的に處理した。

イ俗字・異字の多くは、正字に改めた。たゞし時に原本の舊に従つたものもある。

ロ正俗二體以上を併用するものは、原則として正字を以て統一貫した。潜・潛・潛・潛を潜で統一した如き。たゞし原本の舊を存したのものもある。

ハ俗字・異字を以て一貫しているものは、原則としてこれを蹈襲した。賛・欸の如き。たゞし例外もある。

一原本に於いて、明かに誤字・脱字・衍字・倒錯と認められるものは、そのま

まこれを蹈襲し、傍にこれが校訂正誤を施した。たゞそれを疑問の體に取り扱かつたのは、編者の慎重と謙讓から、獨斷と見られることを避けたかつたからである。なお不用意の誤植か、意識した慣用(音通を含む)かに、わかに決し難いものには、傍に(マ、)を附した。

一記事の係けられた干支(日次)を掲出するのに、次の三様の區別を設けて、正しく原本の體を傳えるように力めた。

イ○干支〔本文〕

これは原本のまゝである。即ち原本に於いて、記事の首に干支を掲出してゐる場合である。

ロ干支○〔本文〕

これは原本に於いて、記事の首に干支を掲出してはいないが、その係けられた干支が明瞭な場合である。即ち先行する記事の首に掲出してある干支と、後續する記事の干支との間に、日次の間隙の

ない時には、これらの干支の間に収載される記事は、總べて先行の干支に係けられたものと考えてよい。

ハ 干支先行——干支後續 ○〔本文〕

これは原本に於いて、(ロ)と同じく記事の首に干支を掲げず、且つその係けらるべき干支に疑問の餘地のある場合である。即ち先行干支と後續干支との間に、日次の間隙のある時は、これらの干支の間に収載された記事の係けられるべき干支は、一應疑問とするを慎重と考え、特に(ロ)と區別して原本の體を存した。

ニ なお同一の干支に係けられる二つ以上の記事に於いては、原則として干支を繰返さない。たゞし(イ)の場合には、特に其の次の記事にだけ同じ干支を掲げて、干支○〔本文〕とした。

一本冊の校正には山根幸夫、松村潤の兩氏が當つた。

世宗實錄

目次

世宗十六年(宣德九年).....	一
世宗十七年(宣德十年).....	九
世宗十八年(正統元年).....	四
世宗十九年(正統二年).....	三
世宗二十年(正統三年).....	六

世宗實錄 卷六十三

十六年正月

○己卯朔上率王世子以下文武群臣行望闕禮又御勤政殿受王世子賀禮次受群臣賀禮並如常儀議政府進表裏鞍馬倭野人亦參皆進土宜野人進生土豹卽命放之（下略）

○賜建州衛都指揮李滿住及李撒滿荅失里使送李三波老等十一名衣服笠靴

庚辰○戶曹啓今觀通事輩遼東貿易時有定私布之數開其私貿之端故數外之物因緣潛持專用力於私事而官市則暫不致慮或二三匹貿易備責而已還載布子而回徒困人馬甚不可也今後令義州官祭其定數外雜物及其回也搜其貿易公私物件轉報本曹

定爲恒式從之

壬午○禮曹與承文院提調同議啓譯語人勸勵之策一漢語訓導加差司正徐士英張顯等一前此譯語之人利於貿易不憚行役之勞爭相鍊業競欲赴京自禁私貿易若差從事官則多般窺避無復鍊業之心每當入朝之行雖不令貿易於京城許令貿易於遼東一譯學生徒居住外方者依當番甲士例完恤本家以供居京之費一加擇年少聰敏子弟十人赴學從之士英與顯本唐人也

〔參〕甲申○咸吉道監司金宗瑞條上事目慶源寧北鎮入居二千二百戶內慶源三百五十戶端川二百八十戶北靑二百八十戶洪原四十戶鏡城五百五十戶吉州五百戶右各官農事稍稔道路不甚遠阻故定額之數多咸興永興各四十五戶定平三十戶安邊二十戶文川十二戶宜川龍津各十戶高原十五戶預原十三戶右各官年歉道遠故定額不多因其

數少可擇壯勇之人以定之其行糧不敷者計其人口多少程途遠近量給還上一慶源府寧北鎮壁城造築軍人慶源五百名鏡城八百名吉州二千五百名端川一千名北青一千名洪原三百名凡六千一百名量其事功難易役之上項各官農事稍稔除入居人外以餘戶抄出〔中略〕一抄定入居時多有稱向化人子孫謀避者本道人民與向化人男婚女嫁並皆相連若抄其塹不相連於向化者則大事幾乎不成除〔己力〕身向化外後子孫及外孫等並皆抄之且防牌等於慶源鏡城防禦慣熟并抄其壯勇有實之人〔中略〕一慶源府寧北鎮入居人民以四口以上爲一戶二千一百戶官奴婢以二口以上爲一戶二百戶自三月十五日至七月初十日計口食不下二萬石竊計慶源鏡城所在雜穀不過一萬四千石其不足者六千石也今者江原道兩倉納米皆輸于安邊共計六千石令其道海邊各官見在米分載于公私船輸于安邊以北各浦以本道水路詳知人管押輸于慶源府一慶源府寧北鎮設立土官作新士氣最是大節其土官之

數考其成興土官之數加減以聞（中略）上命都承旨安崇善往議政府與領

議政黃喜左議政孟思誠議之其慶源府領北鎮（寧力）入居人分定行糧分給

壁城造築軍人分定等事依所啓施行（中略）入居人民已（己力）身向化外後孫外

孫并令入居事久遠來居與本國人民無異者依所啓施行江原道沿海

各官田糙米輸轉事水路甚險自古爲難莫若令戶曹寧北鎮近官所在

雜穀磨鍊以聞次次移給可也設立土官事大抵官額之多寡必因事務

之煩簡今慶源鏡城雖曰巨邑其事務之煩不可與平壤比論官額何必

若此之煩乎且當新造之初設此職官欲興起人心由少漸多益起人心

可也始多終少無乃不可乎崇善回啓（中略）上曰然則當移其寧北鎮近官

所在雜穀也又曰新造之初建設土官以興士氣最是先務其官額之數

毋得減省令吏曹依所啓施行

〔參〕丙戌○兵曹啓寧北鎮土官衛號稱柔遠慶源府土官衛號稱懷遠從之

○己丑御勤政殿受朝野人指揮李甫丹等二十六人倭人宗貞盛

使送三人隨班行禮

〔參〕己丑○兵曹啓今興慶源築城鑿池之役然去年凶歉時當絕食者頗多
非徒遠處之人〔裏力〕憂糧爲難罷役之期在於解冰之後則今年農業恐失其
時姑除其役以待秋成只修因雨頽落之處從之

庚寅○命都承旨安崇善與大臣等議事其一曰予竊聞之往者禁網疎
濶沿邊之人暗與婆猪江野人私相往來以資稱貸或結婚姻以成交好
守令雖或及聞自知禁防之不能全不馳報國家焉得而知之今者征討
之後革面來附禮當待之以厚然非我族類其心必異豈可徒信其歸附
之心而不嚴其出入之防乎自今其私相通好一依前例乎不得已有體
探則守令給公幹然後許以往來乎其二曰今野人等輸誠納款往來絡
繹然驛路疲弊各官病於支持其欲上來者從自願一一許之乎其間擇
爲首者許以上來毋使彼人等擅自往來乎〔中略〕同議以聞戶曹參判朴信
生等議曰痛禁沿邊人私自往來若有犯者用其謀叛之律體探之事依

慶源寧北之例野人願上京者亦依咸吉道例只送渠帥領議政黃喜等議曰一禁彼我私相往來若有來見守令求其鹽醬者一依前例有體探之事則守令報都節制使爲之自願上來者只送頭頭人歲不過四五十人略中上又命安崇善與黃喜孟思誠等略中議其三曰右議政崔閔德解冰後上來何如喜等啓曰解冰後上來則彼人猶以爲疑今旣歸順可卽上來略中上皆從之

庚寅○刑曹啓北靑囚女佐伊德潛奸野人逃入彼土律該謀叛令大臣議之判書趙啓生等曰宜從刑曹所啓領議政黃喜等曰潛從他國但共謀者不分首從皆斬之律正合佐伊德之罪然妻妾子女給付功臣之家爲奴之文非指婦人滅等施行何如判書申商曰無夫失巢之女奸近處彼人去耳宜減等施行命減一等除其緣坐

〔參〕癸巳○吏曹啓咸吉道慶源府寧北鎮土官東西班令本道監司才幹居

處與父職姓名具錄啓聞後本曹更加覈實除授其各品稱號若蹈襲咸興土官之例則一道三處土官稱號混淆且無設官邊鎮作新士氣之意兩處各品職名改定以聞（下略）

甲午○野人倭人來獻土宜

戊戌○禮曹啓亏狄哈柳者從自願侍衛賜衣服笠靴糧料家舍家財鞍馬奴婢又使娶妻除職從之

○兵曹因平安道監司之書以啓曰野人越江後請所持長行馬喂養之豆荅以無國家之法而擅便許給爲難從之仍命曰若不得已時則酌量施行

己亥○賜野人李甫丹等衣服笠靴命饋于南廊

辛丑○差通事金仲渚管押被虜逃來唐人童脫脫等二名解送遼東仍賜脫脫等衣服笠靴

丙午○禮曹判書申商啓曰今來幹朶里告本曹曰今作鎮于幹木河仍率我以居乎無乃黜我等乎蓋其意欲其率居也上曰願爲之氓則何逐之有若欲出去則何拘之有作鎮幹木河彼必不肯然幹木河本是我國之境鄉也童猛哥帖木兒借居其地今見滅於兀狄哈其地蕭然閑曠在我不可不作鎮以鎮之女眞亦來居咸吉道幹朶里若欲同居則亦此例也何獨差殊

戊申○賜野人指揮甫安豆等二名千戶巨所等十四名衣服笠靴
十六年二月

〔參〕辛亥○兵書據全羅道監司關啓曰慶源府寧北鎮自募人在途絕食者

令時到官量給還上入居後所在官收納從之

甲寅○僉知承文院事李邊吏曹正郎金何等以質問直解小學如遼東命給盤纏布十一匹人參五斤邊爲人性鈍年三十餘登第入

承文院學漢語期於成効徹夜講讀聞有能漢語者則必尋訪質正家人相語常用漢語遇朋友必先以漢語接語然後言本國之語由是能通漢語

○平安道監司啓義州昌城碧潼理山江界慈城閭延等各官居民許令越江耕田守令千戶等嚴加守護上令都安撫使酌量施行乙卯○嫌眞兀狄哈及楊木荅兀等七十餘騎掠東良北野人人口牛馬東良野人給曰朝鮮軍馬四千餘人今到幹木河賊驚懼棄牛馬奔還

〔參〕丁巳○咸吉道監司啓曰本道端川等官補充軍等自募入居於新排慶源寧北鎮者乞皆入送隨才差役以實邊邑從之仍傳曰并他道行移依上項例施行

〔參〕辛酉○咸吉道監司金宗瑞請於慶源寧北鎮兩邑皆置判官卽命吏曹

與兩議政同議擇其文武備具者以啓

〔蔘〕壬戌○賜奴婢并五十口于平康縣是縣本凋殘且人吏二十名自募入居于寧北鎮故有是賜

〔蔘〕○咸吉道觀察使金宗瑞啓臣與都體察使河敬復副使沈道源兵馬節制使成達生慶源節制使朱虎美寧北鎮節制使李澄玉等審定慶源寧北鎮兩處城基布置條件開寫以聞一石幕木柵移排東良北幹木河岐令其耕作附近田地者聚居木柵內差土官率領把截守護一幹木河則非唯壤地偏小而薄田居半間有膏腴之地皆爲彼人之田入居人民耕作之田數少不可置其郡邑也然西距東良北不遐北通賊路要衝之地且是幹朶里等聚居之處造壁城用布帛尺周回三千尺伯顏愁所則西距幹木河三十里東距所多老六十里東西救援甚易土地廣濶沃饒可居人民三百餘戶北連董巾愁州賊路相通要害之處移排寧北鎮於伯顏愁所造壁城周回六千尺於幹木河壁城則節制使率領軍人常時守

禦鎮服彼人之心於伯顏愁所則差判官量給軍人守禦節制使往來審治之軍人多少以賊變緊緩酌量分率一所多老則土廣且饒東西與北皆通賊路要害之處審定基地移置慶源府造壁城周回六千尺一東臨古石城則城基廣濶爲半額落非唯修築爲難城內傾窄人民恒居出入農作爲難勿令修築孔州城子亦且隘窄農民聚居亦雖然三面土地沃饒可當農作而所多老邑城相距遙隔又無守護修築此城擇有武略者差海道萬戶兼孔州等處管軍僉節制使正軍一千一百內分掌二百冰合時防禦陸地解冰後泊舟城下有海道賊變乘舟而下則水陸防禦兩全矣一兩邑沿邊入居人民等令兩邑節制使量其要害及遠近排置木柵使之聚居差土官守護木柵各令入堡之人隨宜造排一慶源寧北鎮入居一千一百戶各率四五丁以上合計人戶不下六七千詞訟煩劇節制使剪治無暇故不得全治軍卒因此防禦虛疎於兩邑各置判官全治民事節制使全掌軍務何如一寧北慶源或稱府或稱鎮皆稱都護府何

如寧北鎮土地則東至夫珍衣造山鹿野峴農所平西至幹木河錢掛東良北岐石幕黃節伐獐項要光院西嶺青巖南至海北至何乙漢大山慶源府土地則東限豆滿江西至於豆波峴者乙未下峴翁丘南至海北至馬乳山割屬一童巾愁州地品雖或有沃饒之處然不廣濶置邑把截並皆不宜且賊人來路守禦甚難姑置勿守一兩邑四方周回相距自龍城至東良北幹木河岐九十里又至幹木河七十里自幹木河至伯顏愁所三十里自伯顏愁所至所多老慶源邑城六十里自慶源邑城至孔州石城百有四里自石城至豆滿江入海處三十里自入海處至蒙尙三十里自蒙尙至富居站三十里自富居站至龍城六十里共計五百九十八里量其可耕之地兩邑入居二千二百戶雖各率餘丁無有不敷之患

〔參〕甲子○以司僕判官李伯慶爲慶源判官鏡城判官柳思枝爲寧北鎮判官從議力議政府吏曹僉舉也

〔參〕癸酉○吏曹啓威吉道慶源寧北鎮皆稱都護府各置判官且前此本道